

1 はじめに

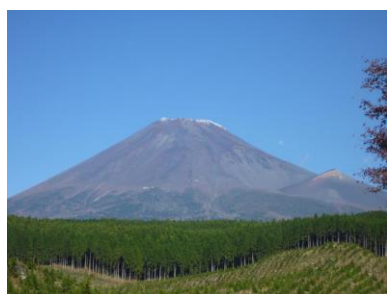
静岡県には、日本最高峰の富士山のほか、南アルプス南部の3,000m級の山々が連なっています。また駿河湾は最深部が2,500mに達し日本で一番深い湾です。幼少時代や晩年を駿河の地で過ごされた徳川家康公は、このように山も海も日本一の風光明媚で自然豊かな地が大好きであったといわれています。

静岡森林管理署は、こうした自然豊かな静岡県の中央部から東部にある国有林を管理しています。県内の国有林は、県全体の森林の約2割で、主に河川の上流部や奥地に分布し、県の西部は天竜森林管理署、伊豆半島は伊豆森林管理署が管理しています。

2 管内にある2つの日本百名山

静岡森林管理署の管理する国有林の中には、日本百名山が2つあります。一つは富士山、もう一つは南アルプスの光（てかり）岳です。

富士山は改めて説明するまでもなく日本最高峰の山です。その自然的価値とともに、そこに根付く文化など人々の営みとの深い関係性が評価され、ユネスコの世界文化遺産に登録されています。静岡署は富士山の標高約800mから3,300m付近までを管理しており、8合目以上は国有林ではなく富士山本宮浅間大社の所有です。日本で二番目に高い北岳は標高3,193mなので、日本一標高の高い国有林を管理していることとなります。



夏の富士山



秋の富士山



冬の富士山

光岳は、南アルプス国立公園の最南端に位置していて、標高は2,592mです。2,500mを超える山としては日本最南端であり、ハイマツの自生地や雷鳥の生息地の南限といわれています。このように貴重な位置づけにある光岳周辺は林野庁が「南アルプス南部光岳森林生態系保護地域」に指定しているほか、環境省による「大井川源流部原生自然環境保全地域」に指定されています。原生自然環境保全地域は人の活動の影響を受けることなく原生の状態がまとまりをもって維持されている地域であり、全国に5箇所しかありません。本州ではここが唯一の指定箇所であり、自然環境の豊かさは折り紙付きですが、アクセスが大変で静岡県側からは山中2泊しないと行けないような場所です。このため、長野県側からの登山が一般的ですが、それでも日本百名山の全制覇を目指す人にとって最後の難関といわれています。光岳を含む南アルプスは、ユネスコから南アルプスエコパークに登録されており、国際的にもその価値が高く評価されています。



光岳

3 富士山国有林の管理

富士山国有林の管理を標高からざっくりと説明すると、標高 1600m以上は保護林として、自然の状態を守ることに重点を置いています。その下の標高 1,300m付近まではレクリエーションの森として散策路を整備したり、富士山をフィールドとして活動するボランティア団体や企業等の方と連携して森林整備や自然体験活動を行うなど、多くの人に森林とふれあっていただけるよう管理しています。さらに標高の低い富士山の裾野は、緩傾斜地であり、道路等も整備されていることから、ヒノキを中心とした人工林を育成し、木材資源を持続的に生産するための効率的な管理を行っています。このように標高や希少性、自然景観、交通の便などを踏まえてゾーニングし、それぞれの管理目標を定めて管理しています。

富士山の静岡県側には、富士山に登る登山道が富士宮ルート、御殿場ルート、須走ルートと 3 本あります。この 3 ルートの登りははじめはどれも 5 合目(または新 5 合目)ですが、同じ 5 合目でもその標高は順に 2,400m、1,440m、2,000mであり、登頂までの大変さには相当の開きがあります。登山道は、市町が管理し、山小屋などは国有林を貸付けして利用していただいています。静岡県側の登山ルートは、それぞれ魅力がありますので、是非富士山の山頂目指してチャレンジしてください。

4 地域を守る治山事業

管内には、富士山、南アルプス以外にも、面積は小さいですが国有林がいくつかあります。その一つが安倍川の上流で静岡の奥座敷と呼ばれる梅ヶ島温泉がある梅ヶ島地区です。ここには、日本三大崩れの一つといわれる大谷崩れがあります(あとの 2 つは富山県鳶山崩れ、長野県稗田山崩れ)。安倍川の源流部にあり、1707 年(宝永 4 年)の宝永地震によってできたものです。

安倍川付近は日本の地質構造を東西に分ける糸魚川静岡構造線が走っており、地質的に複雑な構造で崩壊しやすいことに加え、安倍川は源流部から駿河湾まで標高差約 2,000mを約 50 kmの長さで流れるという日本有数の急流河川であることから、台風などの大雨の時に発生する土石流により、古くから多くの命が失われる災害が繰り返されました。その対策を進めるため、国が昭和 30 年代にこの地域の民有林を買い上げて国有林とし、治山事業を継続的に行ってきています。

近年は、国有林での治山事業や国土交通省の砂防事業の成果により、大きな災害は減少しています。昨年は昭和 41 年に発生した大災害から 50 年目の節目を迎え、国交省、

当署、地元自治体等で梅ヶ島災害 50 年事業実行委員会が組織され、地元の小中学生等も参加する記念行事が開催されました。過去の大災害の記憶をしっかりと残し、今後の教訓にする取組が行われました。今後も地域の方が安心して暮らせるよう、治山事業を進めていくこととしています。



梅ヶ島地区での治山工事の実行前後

また、富士山麓の地質はスコリアといわれる多孔質の火山碎屑物が堆積してできています。この地質は雨水により浸食されやすく、また、何回もの噴火により粒の大きさや透水性の異なるスコリアが層をなしているなど特殊な地質となっていることから、崩壊地の復旧には高度な技術が必要です。

静岡署では、平成 22 年の台風 9 号がもたらした記録的な豪雨で発生した小山町の山腹崩壊や溪流の荒廃を復旧するため、国有地のみならず、静岡県からの要請を受けて、民有林直轄治山事業と呼ばれる民有地の復旧も行っています。



小山町での治山工事の実行前後

5 千頭地域の今と昔

皆さんは千頭という地域をご存じでしょうか。「せんず」と読みます。大井川の上流に位置し、大井川鐵道の終着駅があります。SL の機関車トーマス号が走っていることで家族連れに人気があります。また、千頭から先にはアプト式といわれる急勾配を上る列車が走っており、秘境を楽しめる地域となっています。

千頭地域は南アルプス南部の豊かな自然が残るエリアですが、林業的にも非常に木材生産が活発な地域でした。江戸時代には駿府城のほか、江戸城や京都御所の用材が搬出されたといわれています。戦後も、昭和 43 年までは森林鉄道で千頭地域の木材を搬出し、一大木材基地として賑わっていました。急峻な奥地での伐採や運材、森林鉄道の運行などの技術力や実績から、当時の千頭営林署（現在は静岡署に統合）は全国にその名を轟かせたといわれています。

その後の時代の流れから、千頭地域の森林の管理は公益的機能の重視に舵が切られ、森林生態系保護地域の設定やレクリエーションの森の設定など、豊かな自然が生み出す景観や、森林生態系の価値を維持保全するとともに、その価値を活用して地域振興に貢献していくことが重要な役割となっています。



昔の森林鉄道での木材運搬風景



昔の伐採風景

6 増えすぎたニホンジカへの対策

富士山周辺はシカが増加し、その対策を行わないと、植えた木のみならず、下層植生も無くなり、森林を育てることが困難な状況です。シカは毒のない植物なら何でも食べるといわれ、また、これまで食べてこなかったものに順応するのがはやく、多くの動物は順応に何世代も必要なのに対し、シカは数ヶ月で順応するようで、これまでの食べ物がなくなれば新しい植物に手を出すようです。このため、地域の植物が壊滅してしまう前に対策をとることが必要となっています。当署では、その対策として柵を設置するとともに、捕獲による頭数管理を行っています。中でも誘引捕獲（シャープシューティング）という手法が先進的な事例として評価されています。これは、林道沿いに餌付けしたシカを射撃するものであり、シカの行動生態を把握し、射撃技術に優れた射手が複数頭を確実に捕獲するという専門性の高い技術力を用いています。捕獲の効率性に加え、安全性が高いこと、シカに苦痛を与えないこと、捕獲の失敗により警戒心の強いシカを増やさないことなど、総合的に優れた捕獲手法であり、多くの関係者に注目されています。



夜間のシカの群れ



日中のシカの群れ

7 最後に

当署管内の特徴的なエリアや取組を紹介させていただきましたが、国有林の森林整備を効率的で安全に行う技術力を高め、民有林にも広く普及して林業の成長産業化に貢献する取組を進めることも重要課題です。

県内の民有林に先駆けて植栽作業を効率的に行えるコンテナ苗を導入する取組や、間伐を安全かつ効率的に行う列状間伐を推進する取組、伐り出した木材を県内の大手合板工場に安定供給し木材需要を拡大する取組などを進めています。こうした取組は民有林の関係者とも情報を共有し連携を図りつつ進めており、国産材の利用推進による林業収入の増加と、植栽や間伐等の森林整備を効率的に行うことによる林業支出の低減という収入・支出両面の改善により、収益性が向上するよう取り組んでいます。

このように、管内の国有林では、森林整備、治山、レクリエーションなど多岐にわたる事業を行っていますので、是非国有林の業務に関心を深めていただければ幸いです。